

令和4年度 第2回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和4年9月29日（木）10時00分～11時30分

四国森林管理局 3階会議室（ウェブ開催）

2 議事概要

【委員会の検討結果】

ウッドショックは収束しつつあるが、建築資材全般の価格上昇による住宅需要の低迷、更には外材輸入量も回復してきている中で、国産材製品への引き合いは弱まっている。そのような中、原木市場ではヒノキ構造用丸太を中心に下落傾向となっているものの定常範囲は逸脱していないことから、現時点で国有林材の供給調整を行う必要はないが、民有林材の出材状況、外材製品の状況等にも注視しつつ、引き続き情報収集・分析を行いながら需給動向を見極めていくことが重要である。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 県内の林業事業体への定期的な調査では、民有林生産量は昨年並み（2%増）。別の調査では、36事業体中、9事業体は昨年より増産、22事業体は昨年並み、5事業体は減産と聞いている。
- ・ 山林所有者から立木販売の問合せは増加傾向にあるが、売り払い価格が安いいため伐採後の再生林に苦慮している様子。
- ・ 台風14号の影響で一部の搬出路において被害があるが、生産活動には大きな影響はないのではないか。スギについてはある程度価格が安定しており、このまま推移してほしい。

○ 原木市場・共販所

- ・ 入荷量については、年度当初に比べ落ち着いてきているが昨年比約20%増。昨年度前半と比べ価格が良いこと、天候が良いことで林産事業が活発に行われたためではないか。
- ・ スギ・ヒノキともに最近買い控えがみられ動きは悪い。虫害等もあるが入荷が遅れていた輸入材の影響もあるのではないかと。円安もあり今後は海外輸出など状況変化の可能性もあるのではないかと。
- ・ スギは全体に不足気味で荷動きは良好だが、ヒノキは供給過多のため荷動きが鈍化

している。

- ・ 丸太価格は、スギは現状維持から若干値下がり傾向で推移するが、ヒノキは全体的に値下がり傾向、製品の動きが悪く買い控えが見られる。
- ・ 住宅価格の上昇により着工件数も減少、外材自体も動きが悪い話も聞くので、外材の在庫次第で価格に変化があるのではないか。
- ・ スギは3m材を中心に依然買い気旺盛、外材との競合で需要が増しているが、ヒノキは構造用材を中心に弱含みで推移している。住宅着工数の減少により需要と供給のバランスが崩れ先行き不透明感があり、今後の秋需は期待できない。

○ 製材工場等

- ・ 建築資材全般の価格高騰により新設住宅着工戸数が伸び悩む中、製品の動きが鈍っているため、製材工場では生産調整の実施もみられる。
- ・ 製品以外の資材価格がここにきて一気に上昇し、住宅価格は暴騰状態となり、顧客は価格面で住宅ローンが組みにくく意欲の減退が見られる。その現状を踏まえて流通が停滞し始め、不足を狙った木材高価格の在庫がダブっており、市場でも買い控えが始まっている。
- ・ 構造用合板の在庫は過去最高であり、それは年末からの住宅需要の停滞を意味し、放出という価格調整の兆しも感じられる。国債の金利上昇が始まるとそれに伴って住宅ローンの金利上昇を招き、更に住宅需要低下の恐れがある。
- ・ 住宅着工に関しては、8月には戸建住宅は20%前後減少している。資材全般に価格が10～30%高騰する中、坪単価は60万円超にもなり、施主は価格高騰もあり施工規模を小さくするなどして全体コストを下げる傾向もある。
- ・ ヒノキ製品は販売量の下落に応じて生産量を減産しているが、ヒノキ原木の生産がそれに追随していない。製品は、ウッドショック収束の反動で販売不振に陥っており、価格は平年に比べればまだ高いが全国的に先安感が広がっており買い控えが起こっている。為替が円安に振れているので、ある程度まで製品相場が下がれば輸入材よりも有利になって国産材にも動きが出てくるとみている。
- ・ 国産材は外材に比べ安いのでまだ引き合いがあるが、1年前とは全く違う。住宅価格の高騰、世の中の悪いインフレなど、引き合いが明らかに減っている。外材の在庫が減り、よいインフレにならない限り停滞が続くと思う。